

## MACF礼拝説教要旨

2021.02.21

### 【キリストの言葉】

ローマの信徒への手紙10章17-21節

0:17 実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによつて始まるのです。

10:18 それでは、尋ねよう。彼らは聞いたことがなかったのだろうか。もちろん聞いたのです。「その声は全地に響き渡り、その言葉は世界の果てにまで及ぶ」のです。

10:19 それでは、尋ねよう。イスラエルは分からなかったのだろうか。このことについては、まずモーセが、「わたしは、わたしの民でない者のことでああなたがたにねたみを起こさせ、愚かな民のことでああなたがたを怒らせよう」と言っています。

10:20 イザヤも大胆に、「わたしは、わたしを探さなかった者たちに見いだされ、わたしを尋ねなかった者たちに自分を現した」と言っています。

10:21 しかし、イスラエルについては、「わたしは、不従順で反抗する民に、一日中手を差し伸べた」と言っています。  
+++++

1) 信仰は聞くことから、しかもキリストの言葉を聞くことから  
パウロはとても大切なことを語っていません。信仰は何かをがんばって努力し、達成することで褒美をもらうという流れにはなっていない。

むしろ、キリストの言葉を聞いて神の愛と神の恵みに気付かされることこそ大切。

ところで、私たちは「キリストの言葉」を聞いているのでしょうか？

牧師の言葉、神学者の言葉は聞かれているかもしれませんが。でも、それとキリストの言葉は決して同じとは言えないと思います。

私たちの心に希望と神の愛が深く届くためには、キリストの言葉を聞き、それによって気付かされ、それによって内面的に聖なる飢え渴きを感じ、それによって神の愛を知りたい、神の望むところに近く生きたいという思いを湧き上がらせるのは、「キリストの言葉」そして「キリストの生き様」です。それらを耳と心にしっかり受け止めることが最も大切な事柄として教えられています。

2) 福音は全世界に及んでいる

そしてパウロは「10:18 それでは、尋ねよう。彼らは聞いたことがなかったのだろうか。もちろん聞いたのです。「その声は全地に響き渡り、その言葉は世界の果てにまで及ぶ」のです。」と書き、キリストの福音の言葉は全世界に及んでいると教えます。

つまり福音は宣教師だけによつてもたらされたのではなく、その地域の山や川、月や星、四季折々の花などを通して神の威厳やその慈しみ深さは伝えられているのだとパウロは理解しています。

もう少し個人的、個別的な神との関係に

ついでに事柄については、文字通り、キリストご自身の言葉と行動が書かれた文字や宣教師たちによって伝えられなければなりません。

しかし、神様についての漠然とした恐れ、神のまえにも人の前にも正しくありたい、という思いは自然の営みや、人との繋がりの中でいろいろ教えられ、感じることができるはずなのです。

### 3) イスラエルの人たちへの神の計画

それだけ世界に広がっている「福音をイスラエルの人たちはなぜ無視するのか、なぜ、パウロを迫害までするのか」という質問は当然出てくると思います。

パウロはその背後に神様の計画があるのだと考えています。

それはユダヤ人が軽蔑している異邦人たちの中にイエスを信頼し、救いを得る人たちがたくさん起こされることで、ユダヤ人が彼らに対して嫉妬し、やがて、然るべき時に、異邦人たちでさえ神の恵みの対象になっているのであれば、わたしたちだって、受け取って当たり前だ」と言いながら神様に立ち返る日がきっとあるはずだと「希望の計画」があるのだとパウロは考えています。

だから、ユダヤ人たちがパウロを迫害しても、あれは異邦人や宣教師たちへの嫉妬であ利、いつか、彼らは目覚める時があると確信していたのです。

### 4) 探されようとしている神、不従順な者に対しても手を差し伸べる神

探されようとしている神、不従順な者に対しても手を差し伸べる神がここに教えられています。

神様は異邦人にもユダヤ人にも助けの手を伸ばし、励ましや慰めを提供しようとしておられるという結論をここに提供しているのです。

ユダヤ人にも、異邦人にも救いと喜びと平安をもたらしてくださる神様が紹介されています。